

■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設であり、当科は国立精神・神経センターと連携し、神経・筋疾患に対する高度医療と臨床研究の展開、および情報発信を継続してきた。

従来の神経難病の診療・研究への取り組みと脳血管障害、めまい、頭痛、手足のしびれなどの common disease / symptoms の診療にも積極的に取り組んでいる。

神経難病における新たな臨床の一環としては平成 20 年 12 月より開始されたパーキンソン病などの movement disorders に対する定位脳手術治療の定着が挙げられる。平成 21 年度 3 月時点で延べ 13 例の脳深部刺激治療がなされているが、神経内科は術前後の評価と治療の調整において役割を果たしている。このほかの免疫性神経疾患、神経変性疾患などの神経難病についてはさらに高い水準の診療と研究を行うための知識・情報・技術の取得に努めている。長崎県難病支援ネットワークの拠点病院として、離島など遠隔地を含む長崎県内の重症神経難病症例の在宅療養支援と介護・福祉関係者への講習も担当している。地理的に関係の深い佐賀県西部の神経難病相談事業への医師派遣も、当科が継続して行っている業務の一つである。

平成 20 年度より急性期脳卒中の疫学調査を開始し、本年度で 2 年目を終えた。一定の傾向を見出すことができ、今後のこの地域に合った脳卒中診療を実践していくべく、現在計画中である。

人事に関してはまた、長年にわたり、当院神経内科の臨床と研究を支えてきた後藤公文内科系診療部長が平成 21 年 6 月に退職・異動となった。また平成 21 年 11 月より神経内科医長の中根俊成が臨床研究部長を兼務することとなった。

■ 入院診療実績

疾患名	患者数 (平成 21 年度)	患者数 (平成 20 年度)
脳梗塞(一過性脳虚血発作を含む)	107	96
免疫性末梢神経疾患	28	23
重症筋無力症	17	15
パーキンソン病	119	67
運動ニューロン疾患	60	55
脊髄小脳変性症	18	21
てんかん	16	30
脳出血	4	13
脳炎・髄膜炎	9	11
神経疾患全体	967	1016

■ 研修・教育

カンファレンス

	参加職種	参加人数	開催頻度
神経内科カンファレンス	医師	7 - 8	1 回/週
神経内科・脳外科合同抄読会	医師	9 - 10	1 回/週
病棟カンファレンス	病棟スタッフ, 薬剤師, 理学療法師等	20 - 25	1 回/週
退院前カンファレンス	患者, 家族, 在宅療養支援関係者, 病棟スタッフ,	6 - 10	適時

教育・講習

	参加職種	参加人数	開催頻度
在宅ケア学習会	在宅療養支援関係者, 病棟スタッフ	30 - 40	1 回/2 ヶ月
長崎県地域難病支援従事者研修会	患者, 家族, 地域医療・福祉関係者	10 - 40	1 回/2 ヶ月
佐賀県難病患者自立支援事業	患者, 家族	20 - 25	1 回/2 ヶ月

国立病院機構共同臨床研究

研究名	主任/分担/協力
筋萎縮性側索硬化症における髄液バイオマーカーの探索	主任/分担
パーキンソン病における腰曲がり病 (camptocormia) についての臨床像・治療応性の検討	主任/分担
急性脳炎・脳症後遺症治療と自己免疫病態	分担
筋萎縮性側索硬化症の認知機能に関する研究	分担

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業)

研究班名	主任/分担/協力
スモンに関する調査研究班	分担
免疫性神経疾患に関する調査研究班	分担
特定疾患患者の自立支援体制の確立に関する研究班	分担
重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班	分担

厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業)

研究班名	主任/分担/協力
補足運動野反復磁気刺激による大脳基底核疾患治療の開発研究班	分担

文部科学省関連研究費（科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究）

研究班名	主任/分担/協力
重症筋無力症患者胸腺における免疫系の恒常性維持の解析	主任

■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	(2)	(1)	3	0

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	その他
件数	2(2)	10	4	18

■ 将来の展望

神経内科の臨床はいわゆる難病の診療と common disease/symptoms のバランスが重要である。

当院がこれまで果たしてきた伝統的な役割からは前者の努力が求められようし、地域に生きる病院としての機能に関しては後者の充実が求められる。今年度もやはりこのバランスに注意を払いながらより充実した臨床活動を維持するように努力を重ねたつもりではあるが、今後もこのバランスをいかにうまく保っていくかが診療科としての命題であろう。どちらかに偏重することなく診療を行っていきたいと考えているが、それには脳神経外科など関連する診療科との協調は益々必要になってきている。

研究についてはやはり神経難病を対象としたものが主である、今後は基礎研究と臨床研究両方を発展させるべく、研究計画の立案を行っているところである。これにはもちろん脳血管障害などの common disease も含まれ、フィールドワークが地域医療に貢献できることを目指したいと考えている。幸い、研究費の獲得は困窮することなくできており、今後はそれを用いての結果を出していきたい。

■ 研究業績

<原著論文>

1) 英語論文

1. Matsui N, Nakane S, Saito F, Ohigashi I, Nakagawa Y, Kurobe H, Takizawa H, Mitsui T, Kondo K, Kitagawa T, Takahama Y, Kaji R. Undiminished regulatory T cells in the thymus of patients with myasthenia gravis. *Neurology* 74 (10): 816-20, 2010
2. Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S; Effectiveness of rTMS on Parkinson's Disease Study Group, Japan. High-frequency rTMS over the supplementary motor area improves bradykinesia in Parkinson's

disease: subanalysis of double-blind sham-controlled study. J Neurol Sci 287 (1-2): 143-6, 2009

2) 日本語論文

1. 中根俊成, 松尾秀徳: 多発性硬化症の治療戦略「急性増悪期の治療」. カレントセラピー 27: 51-55, 2009
2. 中根俊成, 松尾秀徳: 脱髄性疾患「血液浄化療法や大量 γ グロブリン療法の適応は」. EBM 神経疾患の治療 岡本幸市・棚橋紀夫・水澤英洋 編, 中外医学出版社, 東京, 422-28, 2009
3. 中根俊成, 白石裕一, 松尾秀徳: 若い女性と精神症状と一自己免疫性辺縁系脳炎一. 内科 104: 567-69, 2009
4. 浦崎永一郎, 山川勇造, 廣瀬 誠, 中根俊成, 宮城 靖: 大脳基底核疾患に対する脳深部刺激療法—パーキンソン病手術法の実際—. 医療 64: 91-98, 2009

<学会発表>

1) 国際学会

1. Nakane S et al. Successful Treatment of Stiff Person Syndrome with Sequential Use of Tacrolimus. Annual Meeting of American Academy of Neurology, Seattle, WA, USA. 2009.4.
2. Fukudome T et al. The effects of mAb35 on neuromuscular transmission in mouse. International Conference on Myasthenia, Paris, France. 2009.12

2) 全国学会

1. 松尾秀徳: ゾニサミドによるパーキンソン病の治療. 日本神経治療学会 2009.6
2. 松尾秀徳ら: Effect of dietary fatty acid composition on Th1/Th2 polarization in lymphocytes. 日本脂質栄養学会 2009.9
3. 松尾秀徳: 神経疾患とアフェレシス. 日本アフェレシス学会 2009.9
4. 松尾秀徳: 「アフェレシスでここまでできる—神経疾患」 Guillain-Barre 症候群. 日本アフェレシス学会 2009.9
5. 松尾秀徳: 液性因子からみた重症筋無力症の病態. 日本神経免疫学会 2010.3
6. 福留隆泰ら: 先天性筋無力症候群. 日本臨床神経生理学会 2009.11
7. 中根俊成ら: 長崎県下で入院加療を行った若年女性に発症した非ヘルペス性脳炎 7 例. 日本神経感染症学会 2009.10
8. 中根俊成ら: NMO 患者 IgG のラットへの passive transfer. 日本神経免疫学会 2010.3
9. 中根俊成ら: Ramatroban による実験的自己免疫性脳脊髄炎の抑制. 日本神経免疫学会 2010.3
10. 白石裕一ら: 単純血漿交換療法が奏功した抗 NMDAR 抗体陽性脳炎の一例. 日本アフェレシス学会 2009.9

3) 地方会

1. 福留隆泰ら：筋無力症を呈するプレクチン欠損症の1例．日本神経地方会九州地方会 2009.9
2. 中根俊成ら：手口感覚症候群を呈した4例．日本神経地方会九州地方会 2009.12
3. 中根俊成ら：パーキンソン病の姿勢障害に対する治療の検討．日本神経地方会九州地方会 2010.3
4. 白石裕一ら：髄液 ADA 高値を認め、抗結核薬が奏功した髄膜脳炎の1例．日本神経学会九州地方会 2009.6

4) 研究班会議その他

●研究会その他

1. 松尾秀徳：トレリーフの使用経験．トレリーフ新発売記念講演会 2009.8
2. 松尾秀徳：パーキンソン病の臨床と最近の話題．諫早医師会セミナー2009.5
3. 松尾秀徳：中枢性脱髄性疾患：最近の話題．県央神経内科医会セミナー2009.9
4. 松尾秀徳：開業医のための神経難病マネジメント．伊万里・杵藤地区神経難病研修会 2010.2
5. 中根俊成ら：Pure sensory stroke の3例．KOU ニューロテレカンファレンス 2009.10
6. 中根俊成ら：両側小脳脚に T2 高信号域を認めた1例．KOU ニューロテレカンファレンス 2009.4
7. 中根俊成ら：脳深部刺激治療の自験例．東彼杵医師会セミナー 2009.5
8. 中根俊成ら：東彼杵郡を中心としたエリアにおける脳血管障害の疫学調査．東彼杵医師会セミナー 2010.2
9. 中根俊成ら：東彼杵郡を中心としたエリアにおける脳血管障害の疫学調査．県北神経懇話会 2010.2
10. 中根俊成ら：両側 STN-DBS を施行したパーキンソン病の1例．長崎神経懇話会． 2009.6
11. 中根俊成ら：パーキンソン病の姿勢障害に対する治療法の検討．長崎神経懇話会． 2010.2
12. 中根俊成ら：視神経脊髄炎の画像解析．MS ファイアーサイドミーティング． 2009.7
13. 中根俊成ら：パーキンソン病における姿勢障害と脳深部刺激治療．県北パーキンソン病フォーラム・2010.3
14. 白石裕一ら：特異な姿勢異常を呈した2例．KOU ニューロテレカンファレンス 2009.7
15. 白石裕一ら：髄液 ADA 高値を認め、抗結核薬が奏功した髄膜脳炎の1例．東彼杵医師会セミナー． 2009.7

16. 白石裕一ら：髄液 ADA 高値を認め、抗結核薬が奏功した髄膜脳炎の 1 例。長崎神経懇話会。2009.6
17. 白石裕一ら：最近経験した脳炎の症例。東彼杵医師会セミナー。2010.1
18. 白石裕一ら：最近経験した脳炎の症例。KOU ニューロテレカンファレンス 2010.2

●研究班活動

1. 松尾秀徳, 中根俊成, 内藤慎二, 本村政勝, 福田卓:NMO 患者 IgG のラットへの passive transfer. 免疫性神経疾患に関する調査研究班 (平成 21 年度). 2010.1
2. 中根俊成, 前川巳津代, 西田美穂, 鶴田真由美, 松尾秀徳: 当院における喉頭気管分離術施行例の支援体制. 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 (平成 21 年度). 2010.1
3. 中根俊成, 西田美穂, 岩崎智子, 鶴田真由美, 本村真紀, 馬場勝江, 前川巳津代, 松尾秀徳: 当院におけるレスパイト・ケア入院についての検討. 特定疾患患者の自立支援体制の確立に関する研究班 (平成 21 年度). 2010.1